

HIV 郵送検査の実態調査と検査精度調査（2023）

◎研究協力者 須藤 弘二 （株式会社ハナ・メディテック）
研究協力者 佐野 貴子 （神奈川県衛生研究所）
研究協力者 近藤 真規子 （株式会社ハナ・メディテック）
研究協力者 今井 光信 （田園調布学園大学）
研究協力者 今村 顕史 （都立駒込病院）
研究分担者 加藤 真吾 （株式会社ハナ・メディテック）

研究要旨

現在インターネット上では、検査希望者が検査機関に行くことなしに HIV 検査を受検することができる“HIV 郵送検査”を取り扱う Web サイトが存在し、その検査割合は増加しつつある。この HIV 郵送検査について現状を把握するため、郵送検査会社に対してアンケート調査を行い、検査数、陽性数、使用検体、検査法、検査結果の通知法等に関する実態調査を行った。また検査精度の調査のため、パネル血漿を用いて作成した再構成全血検体を用いて検査精度調査を行った。

アンケートを依頼した 19 社の内、13 社から回答が得られた。郵送検査会社全体の HIV 年間検査数は 153,037 件、昨年と比較して 2%増加しており、保健所等検査の推定数である 12 万件を上回った。団体検査の受検者率は 32%であり、推定される団体検査の受検者数は昨年と比較して 8.8%減少していた。HIV スクリーニング検査陽性数は 124 例であり、昨年と比較して 18%減少していた。判定保留数も 29 例と 38%減少しており、陽性数と判定保留数を併せた 153 例は昨年の 199 例と比較して 23%減少していた。HIV 検査の受検費用は平均 4,057 円、検査日数は平均 3 日であった。検査検体は全血を濾紙や採血管で保存したものをを用いており、CLEIA 法、PA 法、イムノクロマト法、CLIA 法等、PMDA で認可された臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて専用 web サイトや E-mail での通知が選択できる会社が多く、検査結果が陽性だった場合、ほぼすべての検査会社で病院での検査をすすめていた。

郵送検査会社 8 社に対し陽性 3 例、陰性 2 例のパネル検体を用いて検査精度調査を行った結果、8 社すべての会社で、陽性、陰性検体ともすべて結果が一致していた。

今後も定期的な検査精度調査を行い、団体検査、受検者に対する検査相談、フォローアップ等の改善のため、「HIV 郵送検査のあり方について」等を活用し、各郵送検査会社の協力を得て、郵送検査をより安心して受けられ、信頼できる検査とする必要がある。

A.研究目的

現在 HIV 検査は、土曜・日曜・夜間検査、即日検査や NAT 検査等の検査希望者のニーズに合わせた検査が、保健所・病院・民間クリニック等の検査・医療機関で行われている。それらに加えて、インターネット上では、検査希望者が検査機関に行くことなしに HIV 検査を受検することができる“HIV 郵送検査”を取り扱う Web サ

イトが存在し、その検査割合は増加しつつある。この HIV 郵送検査について現状を把握するため、郵送検査会社に対してアンケート調査を行うことにより、検査数、陽性数、使用検体、検査法、検査結果の通知法等に関する実態調査を行った。また昨年に引き続き、検査精度の調査のため、調査を了承した郵送検査会社に対し、パネル血漿を用いて作成した再構成全血検

体を用いて実際に検査を依頼することによって検査精度調査を行った。

B.研究方法

1. アンケート調査

検索サイト「Google」を用いて、「エイズ+郵送」、「HIV+郵送」、「郵送検査」、「郵送検診」、「郵送健診」で検索を行い、HIV 郵送検査を取り扱う Web サイトを上位 100 位まで検索した。検索した Web サイトで販売されているキット、または Web サイト自体を運営している会社を調べた結果、自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社が現在 19 社あることがわかった。これら 19 社の郵送検査会社に対し、2024 年 1 月 30 日から 2 月 19 日にかけて手紙、FAX、メールにてアンケート調査の依頼を行った。

アンケート調査は以下の 17 項目について行った（資料 1）。

- ① 年間スクリーニング検査数、検査陽性数、判定保留数（団体での定期健診検査受付の有無とその割合、返却方法、確認検査の実施、医療機関への紹介と受診確認件数）
- ② 梅毒スクリーニング検査数と検査陽性数（団体検査の割合）
- ③ 検査精度調査への参加の有無
- ④ 郵送検査検体を用いた確認検査の研究の参加検討
- ⑤ HIV 郵送検査に関する今後の課題と展望
- ⑥ HIV 郵送検査の開始年月
- ⑦ 検査申込方法
- ⑧ 検査費用
- ⑨ 検査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具
- ⑩ 受検者から会社への検体輸送方法
- ⑪ スクリーニング検査の方法と使用キット
- ⑫ スクリーニング検査の実施施設
- ⑬ 検査結果の通知方法と通知までの日数
- ⑭ スクリーニング検査陽性時の対応

- ⑮ 2022 年以前の年間検査数と陽性数
- ⑯ 他に取り扱っている STD 検査の種類
- ⑰ 郵送検査を行うための届出、申請等

2. 検査精度調査

前年のアンケート調査で参加または返答無しであった会社、あるいは参加希望の連絡があった会社に呼びかけ、参加の確認が取れた 8 社を対象とした。それぞれ陽性 3 検体、陰性 2 検体、合計 5 検体について検査を依頼して検査精度調査を行った。陽性検体は、パネル血漿 55% と健常人血球成分 45% を混合することにより再構成した血液で作成し、陰性検体は健常人血液を用いた。パネル血漿は SeroDetect HIV-Ab Range Validation Panel KZMC024 (ZeptoMetrix 社) の #7 から #9 の 3 種類を用いた。検体は通常行われている郵送検査と同様に、各施設で用いている方法で保存して郵送し、測定を行った。

C.研究結果

1. アンケート調査

依頼した 19 社の内、13 社から回答が得られた。

① 年間スクリーニング検査数と検査陽性数(図 1)

2023 年の HIV 郵送検査全体のスクリーニング検査数は 153,037 件であった。13 社の内、団体検査の受け付けがあったのは 5 社であった。郵送検査の内、団体検査の受検者率は 32%、推定される団体検査の受検者数は 48,333 件であった。返送方法(複数回答)として、個人と依頼人両方に返送が 4 社、個人にのみ返送が 3 社、依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送が 3 社、依頼人にまとめて返送が 1 社であった(図 3)。

郵送検査による HIV スクリーニング検査陽性数は 124 例、判定保留例は 29 例であった。確認検査の陽性数は 18 例、電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数は 41 例、医療機関での受診が確認できた件数は 20 例であった。

② 梅毒スクリーニング検査数と検査陽性数

2023 年の梅毒郵送検査のスクリーニング検査数は 159,427 件であった。梅毒検査陽性数は 2,266 例であり、陽性率は 1.42%だった。団体検査の受検者率は 35%、推定される団体検査の受検者数は 56,455 件であった。

③ 検査精度調査への参加の有無

検査精度調査へ参加希望する会社は 9 社、希望しない会社は 4 社であった。

④ 郵送検査検体を用いた確認検査の研究の参加検討

郵送検査検体を用いた確認検査の研究の参加を検討する会社は 5 社、希望しない会社は 7 社、無回答が 1 社であった。

⑤ HIV 郵送検査に関する今後の課題と展望

ガイドラインができれば良いという記述が 1 社よりあった。

⑥ HIV 郵送検査の開始年月

郵送検査を開始した時期は、2000 年 5 月、2000 年 8 月、2002 年、2003 年 4 月、2003 年 10 月、2006 年 4 月、2007 年 3 月、2012 年 10 月、2013 年 8 月、2016 年 6 月、2020 年 11 月、2023 年 3 月、2023 年 11 月であった。

⑦ 検査申込方法（複数回答）（図 2）

インターネットでの申込は 12 社で行われていた。電話での申込は 8 社、FAX での申込は 5 社、店頭または診療所での販売は 3 社、郵便での申込は 2 社、定期検査は 2 社で行われていた。

⑧ 検査費用（図 2）

検査費用は 2500～6000 円（税抜）であり、平均検査費用は 4057 円（税抜）であった（回答 11 社）。

⑨ 査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具(図 2)

検査検体は 13 社すべて血液であり、採血はランセットによる指先穿刺であった。検体の保存は濾紙での保存が 8 社、専用容器での保存 4 社、両方用いているのが 1 社であった。専用容器で保存している 5 社のうち、2 社は抗凝固剤を用いてお

り、1 社はフィルターによる血球成分の除去を行っていた。

⑩ 受検者から会社への検体輸送方法（図 2）

受検者から会社への検体輸送は、13 社とも郵便であり、温度設定は、12 社が室温、1 社が冷蔵であった。

⑪ スクリーニング検査の方法と使用キット(図 2)

郵送検査会社で使用されているスクリーニング検査法は CLEIA 法が 8 社、PA 法が 2 社、イムノクロマト法が 1 社、CLIA 法が 1 社であった(回答 12 社)。

⑫ スクリーニング検査の実施施設

スクリーニング検査は 13 社中 8 社が自社のラボで行っていた。5 社は他の検査機関に検査を依頼していた。

⑬ 査結果の通知方法と通知までの日数（複数回答）（図 2）

検査結果の通知は、郵便が 10 社（希望者への通知を含む）、専用 web サイトが 7 社、e-mail が 5 社、携帯ショートメールが 1 社であった。結果通知までの日数は、検体受領後 1～4 日であり、平均 2 日であった（回答 11 社）。

⑭ スクリーニング検査陽性時の対応（複数回答）

スクリーニング検査結果が陽性だった場合、13 社中 12 社が病院で確認検査を受けるか、もしくは提携している医療機関に行く様に勧めていた。

対応の内訳は、病院で確認検査を受けるように勧めているのが 11 社、提携している医療機関に行くように勧めているのが 5 社、自社で設けた専用の相談連絡先を知らせているのが 3 社、保健所で確認検査を受けるように勧めているのが 2 社、HIV に関する相談窓口を紹介しているのが 2 社、スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せているのが 2 社、追加検査・確認検査を実施し受検者への結果通知に反映させているのが 1 社、自社診療所へ来院を促しているのが 1 社であった。

⑮ 2022 年以前の年間検査数とスクリーニング

検査陽性数（図 1）

HIV 郵送検査全体の検査数と陽性数を図 1 に示した。検査数は 2001 年から 2019 年まで 2012 年を除き毎年増加しており、新型コロナウイルスが流行を始めた 2020 年と 2021 年には減少していたが、2022 年以降はまた増加に転じていた。陽性数は 2001 年から 2006 年まで増加し、2013 年までは 200 件前後でほぼ横ばいであったが、2014 年から 2023 年までは 100 件前後で推移していた。

⑯ 他に取り扱っている STD 検査の種類（複数回答）

郵送検査で他に取り扱っている検査を調査した結果、クラミジア、淋病は 9 社が取り扱っており、HBV と梅毒は 11 社、HCV は 10 社、ヒトパピローマウイルスとトリコモナスは 4 社、カンジダとマイコプラズマは 3 社、ウレアプラズマは 2 社、ヘルペスウイルスと成人 T 細胞白血病と細菌性膣炎は 1 社が取り扱っていた。

⑰ 郵送検査を行うための届出、申請等

検査に関して、8 社が登録衛生検査所申請を行っていた。キット製造に関して、1 社が組み合わせ医療機器に関わる製造販売の申請を行っており、1 社が医療機器申請を行っていた。販売に関して、3 社が高度管理医療機器販売業許可を得ており、1 社が医療機器販売業の申請、1 社が管理医療販売・貸与業の登録を行っていた。

2. 検査精度調査

郵送検査会社 8 社に対し、陽性 3 検体、陰性 2 検体を郵送し、報告された検査結果を図 4 に示した。郵送検査会社 8 社について、陽性 3 検体はすべて陽性、陰性 2 検体はすべて陰性で結果が一致していた。

D. 考察

2023 年における郵送検査会社全体の年間検査数は 153,037 件であり、昨年の検査数である 149,637 件と比較すると 2%増加していた。エイズ発生動向調査（エイズ動向委員会提供）で報告

された 2023 年第 1 四半期と 2 四半期の保健所等検査数は計 49,735 件、前年比 66%増であることから、年間の保健所等検査数は約 12 万件と大きく回復することが推定されるが、まだ 153,037 件である郵送検査数のほうが多いことが予想された。

また郵送検査数の内、32%が団体受付による検査と推定され、郵送検査の中で大きな割合を占めていた。個人が行う検査の推定数と団体検査の推定数について、それぞれ昨年からの検査数増減率を比較すると、団体検査が 8.8%減少しているのに対し、個人検査は 8.4%増加しており、新型コロナウイルスが流行した 2019 年以降、個人検査数が増加し、相対的に団体検査の割合が減少していることが示された。

2023 年における郵送検査会社全体の検査陽性数は 124 例であり、昨年と比較して 18%減少していた。判定保留数は 29 例であり、昨年と比較して 38%減少していた。判定保留はすべての郵送検査会社で陽性と同様に医療機関での再検査を勧められており、陽性数と判定保留数を併せた数は 153 例、昨年の 199 例と比較して 23%減少していた。

梅毒郵送検査数は、2022 年から 2023 年にかけて 17%増加していたが、陽性数は 2.6%減少とほぼ横ばいであり、陽性率は 0.28%減少していた。

梅毒の感染症発生動向調査（国立感染症研究所提供）に基づく 2023 年の梅毒感染者報告数は 14,906 人と 2020 年から毎年増加しており、梅毒郵送検査の検査数の増加は、感染者数増加の報道等による影響が考えられた。その一方で、2023 年の梅毒感染者報告数を四半期に分けると第 1 四半期が 3,700 人、第 2 が 3,964 人、第 3 が 3,820 人、第 4 が 3,422 人と、第 2 期をピークとして減少してきており、梅毒郵送検査陽性数の減少は、この結果を反映していると考えられた。梅毒郵送検査の年間検査数と陽性数についてはさらに継続して調査が必要である。

HIV 検査を取り扱う郵送検査は、主にインター

ネットによって検査申込が行われ、検査費用は平均 4057 円、検査日数は平均 2 日であった。検査検体は全ての会社で血液が用いられており、郵送されてきたキットに添付されているランセットで採血し、濾紙や採血管で保存する形式をとっていた。郵送検査会社で行われる検査は、返答があったすべての会社で、CLEIA 法、PA 法、イムノクロマト法、CLIA 法等、PMDA で販売認可を受けた臨床検査キットが用いられていた。

検査結果の通知方法は郵送が中心であったが、web 専用サイトや PC・携帯での e-mail で通知している会社も多く見られた。スクリーニング検査結果が陽性だった場合、13 社中 12 社とほぼすべての検査会社で医療機関での検査をすすめていた。2023 年に陽性となった 124 例の内、電話やメール相談で受検者を医療機関へ紹介した件数は 41 例、33%であり、医療機関での受診が確認できた件数は 20 例、16%であった。郵送検査は匿名であるため、受検者が医療機関へ受診したかの確認は難しく、検査後フォローアップの重要性が示された（図 3）。

今回検査精度調査を行った郵送検査会社 8 社について、8 社すべてで陽性、陰性検体とも結果が一致していた。今後も定期的に検査精度調査を行うことにより、郵送検査の検査精度を維持し向上する必要がある。

郵送検査は、受検者の都合の良い時間と場所に対面することなく検査を受けることができる利点がある一方、郵送や Web サイトを用いた検査の特性上、受検者への検査説明、検査相談、検査後フォローアップ等が対面で行われないため、HIV 検査に関する十分な情報が伝えにくいという欠点がある。また、濾紙血を用いた場合の検査精度に関するデータが乏しく、団体受付において検査結果が本人以外の検査依頼者に返されているという問題点もある。

2018 年 1 月に改正された「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（エイズ予防指針）」指針では、郵送検査に関して「郵送検査の結

果、更なる検査が必要とされた者を医療機関等への受診に確実につなげる方法等について検討する必要がある。」と記載されている。今後も今年度行ったような定期的な検査精度調査を行い、団体検査、受検者に対する検査相談、フォローアップ等の改善のため、2017 年に発行された「HIV 郵送検査のあり方について」等を活用し、各郵送検査会社の協力を得て、郵送検査をより安心して受けられ、信頼できる検査とする必要がある。

E. 結論

郵送検査会社全体の HIV 年間検査数は毎年増加しており、新型コロナウイルスが流行しはじめた 2020 年と 2021 年は減少していたが、2022 年になって再度大きく増加し、2023 年も増加していた。また郵送検査の内、32%が団体受付による検査と推定された。陽性数と判定保留数を併せた数は 153 例であり、昨年と比較して 23%減少していた。HIV 検査の受検費用は平均 4057 円（税抜）、検査日数は平均 2 日であった。検査検体は全血を濾紙や採血管で保存したものをを用いており、PMDA で認可された臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて専用 web サイトや E-mail での通知が選択できる会社が多く、検査結果が陽性だった場合、ほぼすべての検査会社で病院での検査をすすめていた。

今後も定期的な検査精度調査を行い、団体検査、受検者に対する検査相談、フォローアップ等の改善のため、2017 年に発行された「HIV 郵送検査のあり方について」等を活用し、各郵送検査会社の協力を得て、郵送検査をより安心して受けられ、信頼できる検査とする必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Uno S, Gatanaga H, Hayashida T, Imahashi

M, Minami R, Koga M, Samukawa S, Watanabe D, Fujii T, Tateyama M, Nakamura H, Matsushita S, Yoshino Y, Endo T, Horiba M, Taniguchi T, Moro H, Igari H, Yoshida S, Teshima T, Nakajima H, Nishizawa M, Yokomaku Y, Iwatani Y, Hachiya A, Kato S, Hasegawa N, Yoshimura K, Sugiura W, Kikuchi T. Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism: a multicentre retrospective study. *J Antimicrob Chemother.* 2023 Dec 1; 78(12):2859-2868. doi: 10.1093/jac/dkad319.

- 2) Otani M, Shiino T, Hachiya A, Gatanaga H, Watanabe D, Minami R, Nishizawa M, Teshima T, Yoshida S, Ito T, Hayashida T, Koga M, Nagashima M, Sadamasu K, Kondo M, Kato S, Uno S, Taniguchi T, Igari H, Samukawa S, Nakajima H, Yoshino Y, Horiba M, Moro H, Watanabe T, Imahashi M, Yokomaku Y, Mori H, Fujii T, Takada K, Nakamura A, Nakamura H, Tateyama M, Matsushita S, Yoshimura K, Sugiura W, Matano T, Kikuchi T; Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic

clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. *J Int AIDS Soc.* 2023 May;26(5): e26086. doi: 10.1002/jia2.26086.

2.学会発表

- 1) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、今村顕史、加藤眞吾. HIV 郵送検査に関する実態調査(2022). 第 37 回日本エイズ学会学術集会、京都市、2023 年.
- 2) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、櫻木淳一、今井光信、加藤眞吾、今村顕史. 民間臨床検査センターにおける HIV 検査等の実施状況及び確認 IC 法検査試薬導入に関する調査. 第 37 回日本エイズ学会学術集会、京都市、2023 年.

H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

①特許取得

なし

②実用新案登録

なし

③その他

なし

資料 1

HIV 郵送検査に関するアンケート(2023)

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業

「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者: 今村顕史)

このアンケートは、HIV 郵送検査の実態を調査させていただくために、インターネットで検索可能であった HIV 郵送検査を取り扱っている会社様宛にお送りさせていただいております。本アンケート調査の集計結果は、個々の会社名を記号化して使用いたします。(アンケートの集計結果は、会社名を記号化して、研究班の報告書や学会等で報告することがあります。) より良い HIV 検査体制の充実のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

以下のアンケート項目にお答えください。誠に申し訳ありませんが、2月13日(火)までにご返信いただけます様、よろしくお願いいたします。

貴社名 _____ 部署名 _____
担当者名 _____ 様 e-mail _____
住所連絡先 変更 1. なし ・ 2. あり (ありの場合は以下に記入をお願いします)
貴社住所 _____
連絡先 Tel _____ FAX _____

以下の設問でお伺いした検査数と陽性数は、個別の会社の数として公表することではなく、全郵送検査会社の合計数としてのみご報告させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

① 昨年(2023 年 1-12 月)の HIV スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. HIV 検査数 _____ 件

団体での定期健診検査受付: 1. あり ・ 2. なし ・ 3. 不明
→ ありの場合: およそ _____ %
団体検査受付時の結果の返送方法 (複数回答可):
A. 個人にのみ返送 ・ B. 個人と依頼人両方に返送 ・ C. 依頼人にまとめて返送 ・
D. 依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送 ・ E. その他 _____

2. HIV 検査陽性数 _____ 件

(検査結果として陽性以外に判定保留がある場合、その件数 _____ 件)
(確認検査を実施している場合は確認検査陽性数 _____ 件)
(電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数 _____ 件)
(受検者が医療機関へ受診したことが確認できた件数 _____ 件)

② 梅毒の検査を行っている場合は、昨年(2023 年 1-12 月)の梅毒スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. 梅毒検査数 _____ 件 (団体検査 およそ _____ %)

2. 梅毒検査陽性数 _____ 件

③ HIV 郵送検査の精度向上のため、昨年に継続して検査精度調査を行う予定です (検体数は 5 件です)。ご参加いただける場合は、後程詳細な方法と日程についてご連絡いたします。

1. 参加を希望する。 2. 参加を希望しない。

④ HIV 郵送検査検体を用いた確認検査の検討のため、貴社で陽性となった検体の残渣 (パンチ後のろ紙等) をお送りいただき、確認 IC 法で検査を行いたいと考えております。ご検討していただける場合は、後程詳細な方法と日程についてご連絡いたします (ご検討後にお断りいただいてもかまいません)。

1. 参加を検討する。 2. 参加しない。

⑤ HIV 郵送検査に関連して今後の課題・展望等ございましたら、御意見をお聞かせください。
(必要があれば適宜別紙を追加し御記載ください)

新規にアンケートをお答えいただく方は以下の設問にご記入をお願いします。昨年のアンケートで
お答えをいただいております、昨年と回答が変わらない設問については変更無しに○を、回答が変わった設
問についてはご記入をお願いします。

⑥ HIV 郵送検査の開始年月を教えてください。

____年 ____月 ____日より開始 _____ ・ 変更なし

⑦ HIV 検査の申し込み方法を教えてください。(複数回答可)

1. インターネット ・ 2. 電話 ・ 3. FAX ・ 4. 郵便 ・ 5. 定期健診 ・ 6. 店頭(店名 _____)
7. その他(_____) _____ ・ 変更なし

⑧ HIV 郵送検査の費用を教えてください。

____円(税込 _____円) _____ ・ 変更なし

⑨ HIV 郵送検査に用いる検体とその保存方法を教えてください。また検体が血液の場合、採血部位
と使用器具について、併せて教えてください。

<検査検体> 1. 血液 ・ 2. 唾液 ・ 3. 尿 ・ 4. その他(_____) ・ 変更なし

<保存方法> 1. 専用容器(抗凝固剤・血清分離剤) ・ 2. ろ紙 ・ 3. その他(_____)

→検体が血液の場合

<採血部位> 1. 指先穿刺 ・ 2. 耳朶採血 ・ 3. その他(_____)

<使用器具> 1. ランセット ・ 2. その他(_____)

⑩ 受検者から貴社への検体輸送方法について教えてください。

<検体輸送方法> 1. 郵便(宅急便) ・ 2. その他(_____) ・ 変更なし

<設定温度> 1. 室温 ・ 2. 冷蔵 _____℃ ・ 3. 凍結 _____℃

⑪ HIV スクリーニング検査の方法と使用キット名を教えてください。

1. CLEIA 法 ・ 2. イムノクロマト法 ・ 3. PA 法 ・ 4. その他(_____) ・ 変更なし
キット名 _____

⑫ HIV スクリーニング検査をどのように実施していますか。

1. 自社内ラボ ・ 2. 他の検査機関(機関名 _____) ・ 変更なし

⑬ HIV スクリーニング検査結果の通知方法(複数回答可)と通知までの日数を教えてください。

1. e-mail(携帯・PC) ・ 2. 郵送 ・ 3. その他(_____) ・ 変更なし
検体受領後 _____ 日で結果を通知

⑭ HIV スクリーニング検査陽性の場合の対応方法を教えてください(複数回答可)。

1. 保健所で確認検査を受けるように勧める。 _____ ・ 変更なし
2. 病院で確認検査を受けるように勧める。
3. 提携している医療機関に行くように勧める。(提携医療機関 _____)
4. 自社で設けた専用の相談連絡先を知らせる。(電話 _____ ・ メール _____)
5. HIV に関する相談窓口を紹介する。(エイズ予防財団・NPO・その他 _____)
6. 追加検査、確認検査を実施している。(方法 _____)(キット名 _____)
→受検者への結果通知に反映させている。(はい ・ いいえ)
7. スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せる。
8. その他(_____)

⑮ 昨年より前の HIV 検査取り扱い数と HIV スクリーニング検査陽性数を教えてください。

_____ ・ 変更なし

	～2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
年間検査数																							
検査陽性数																							

⑯ 他に取り扱っている STD 検査のその種類を教えてください(複数回答可)。

1. B 型肝炎 ・ 2. C 型肝炎 ・ 3. 梅毒 ・ 4. クラミジア ・ 5. 淋病 _____ ・ 変更なし
6. その他(_____)

⑰ 郵送検査を行うにあたって、国、都道府県等の届出、申請等、どのような手続きを行いましたか。

_____ ・ 変更なし

御協力ありがとうございました。

図1

HIV郵送検査の動向 — HIV郵送検査数と陽性数の推移（2001-2023）—

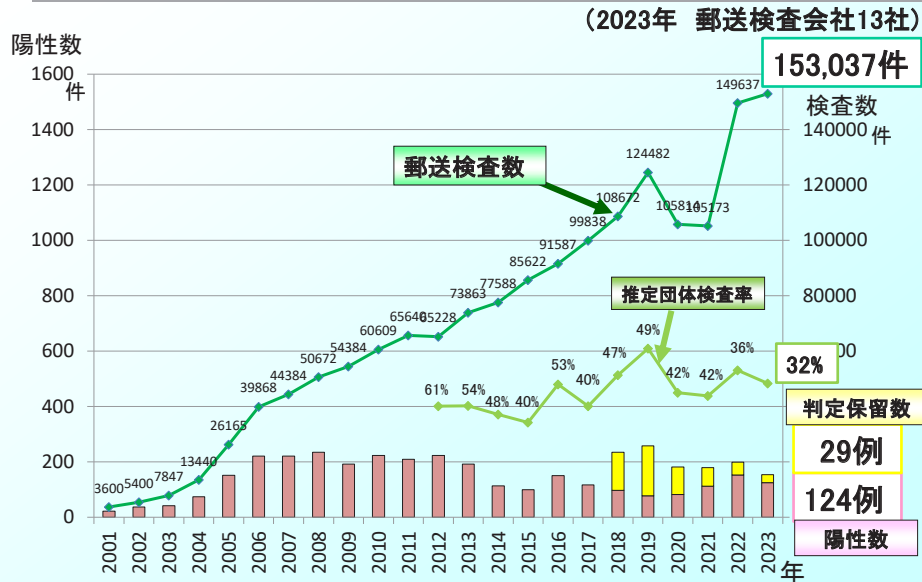


図2

HIV郵送検査の流れ（2023）

(2023年 郵送検査会社13社)

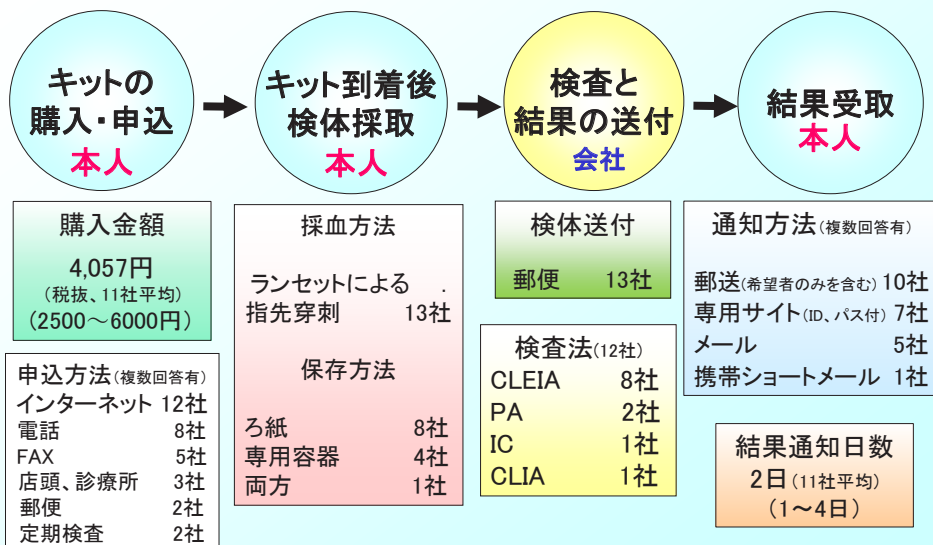


図3

フォローアップと医療機関への繋がり（2023）

（2023年 郵送検査会社13社）

郵送検査 スクリーニング検査陽性数	124件
→ 電話やメールによる相談で	
受検者を医療機関へ紹介した件数	41例
→ 医療機関での受診が確認できた件数	20例

団体検査あり	5社
返送方法(複数回答)	
受検者と依頼者両方に返送	4社
受検者個人にのみ返送	3社
依頼者に受検者ごとの封書をまとめて返送	3社
依頼者にまとめて返送	1社

→ 団体検査での結果返しは受検者だけではなく依頼者にも結果を返していた。

図4

検査精度調査結果（2023）

使用検体：陽性3検体、陰性2検体、合計5検体

対象：郵送検査会社8施設

会社名	検体番号				
	陽性検体			陰性検体	
	1	2	3	4	5
A社	+	+	+	—	—
B社	+	+	+	—	—
C社	+	+	+	—	—
D社	+	+	+	—	—
E社	+	+	+	—	—
F社	+	+	+	—	—
G社	+	+	+	—	—
H社	+	+	+	—	—
	x400	x800	x2000	+:陽性 —:陰性	
	PA 抗体価				

郵送検査会社8社すべてで陽性、陰性検体とも結果が一致していた。